

令和3年度第1回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和3年7月20日（火）13：30～15：00

開催場所：アキタパークホテル 2階 ゴールデン

出席者：松渕評議員（議長）、金子評議員、佐々木（宏）評議員、小林評議員、

佐々木（卓）評議員、栗盛評議員、近藤評議員（代表別・50音順）

加藤支部長、山本部長、河上部長、青木グループ長、園部グループ長、二田グループ長、

安田グループ長、水口主任、高橋主任、澤口スタッフ（記）

議事録署名人：金子評議員、佐々木（卓）評議員（50音順）

■ 議事事項

1. 令和2年度協会けんぽの決算と秋田支部の収支について

■ 質疑応答、意見交換等

-特段の意見なし-

■ 議事事項

2. 令和2年度秋田支部事業報告及び保険者機能強化予算執行状況について

■ 質疑応答、意見交換等

【事業主代表】

レセプト査定率について、秋田支部と全国の数値に大きな乖離があるが、どのような要因が考えられるか。

【事務局】

要因としては、①医療機関の請求が適正であれば査定率は低くなること。②支払基金の査定率が全国と比べて低いことが挙げられる。引き続き、レセプト点検員のスキル向上、支払基金の支部間差異解消への働きかけ等実施してまいりたい。

【事業主代表】

秋田支部医療費適正化予算内にて、WEB広告を用いて加入者の医療保険制度等認知度向上を目的としたクイズサイトを制作したとあるが、どの程度反響があったのか。

【事務局】

令和2年9月から11月の3か月にわたって実施し、クイズサイトへの総アクセス数が約5万件。クイズ回答者数が約2万人となっている。

【学識経験者】

ICTを活用した特定保健指導はどのように実施しているのか。

【事務局】

「Zoom」を活用し行っている。

【学識経験者】

コロナ禍において対人による特定保健指導は厳しいと感じている。ICT を活用しながら実施いただきたい。

■ 議事事項

3. インセンティブ制度の見直しについて

■ 質疑応答、意見交換等

【被保険者代表】

ジェネリック医薬品の使用割合は全国平均で 8 割を超えている。伸びしろを考えると評価指標から外しても良いと考える。

【被保険者代表】

最近、ジェネリック医薬品に関する不正問題等が頻発している。今後加入者が使用を躊躇することが相次ぎ、ジェネリック医薬品使用割合の伸び率が鈍化する可能性を踏まえれば、ジェネリック医薬品に関する評価項目を残した方が良いと考える。

【学識経験者】

一般のジェネリック医薬品に関する不正問題に関して、協会けんぽとして対策は講じているのか。

【事務局】

本部において日本ジェネリック製薬協会へ安定供給・安全性の確保等申し入れを行っている。また、厚生労働省においては、立ち入り検査の実施をする等安全性の強化へ対策をとっている。

【学識経験者】

仮にジェネリック医薬品に関する項目を評価指標から削除した場合、加入者が使用を控えるという可能性もあるのではないかと。医療費適正化の観点から引き続き評価指標として残すべきと考える。

【事業主代表】

ジェネリック医薬品の使用割合は、医療費適正化の面でも加入者から見てわかりやすい指標であり、評価指標として残すべきと考える。

【事業主代表】

秋田支部の現状を踏まえると、「実績 5 伸び率 5」のウエイトに変更した方が良いと感じる。

【学識経験者】

特定健診や特定保健指導の評価指標において、実施率に対する評価割合が 60%であることは、これまで実施率が高かった支部が過小評価されているように感じる。また、実施件数の対前年度上昇率の評価割合が 20%であることについては、元々実施率の低い支部への過大評価となる可能性があると感じている。

【被保険者代表】

元々頑張っていた支部が評価されないということがないように制度設計にすべき。

【被保険者代表】

インセンティブ制度が加入者の皆さまからいただいた保険料を財源としていることを鑑みれば、現状を維持し、加入者への影響を抑えるべきと考える。

【学識経験者】

減算対象支部については現行通りで良いと考える。

【事業主代表】

インセンティブ制度の開始から数年しかたっておらず、加入者の行動変容につながったかの検証が十分に出来ていないと感じる。当面は現行の制度を維持し、そのうえで効果検証行ってみてもいいのではないか。

【事業主代表】

配分基準のメリハリ強化の視点から減算対象支部の拡大を行ってはどうか。

【学識経験者】

インセンティブが不十分である中間層に効果を及ぼせるためにも、減算対象支部を拡大すべき。

■次回評議会の開催 令和3年10月開催予定